



弁護士のための英会話講座を 受けた理由と今後も受けた理由

会員 小寺 悠介 (66期)

私が、英会話教室に通い始めた理由というのは、2015年7月にアメリカのボルティモアに行くことが同年4月の段階から決まっていたので、少しでも英語力を付けたいと思ったのがきっかけである。英語の勉強は毎年の年明けの目標に掲げておきながら、実行できていなかったが、今年は特に必要性に駆られていた。

英会話教室は毎週水曜日と木曜日のお昼の時間帯に開催されている。レベルは参加する人たちによって多少変わるとはいえ、英語からしばらく離れていた人でも問題なく参加することができる。このあたりは講師がうまいように配慮してくれるのがありがたい。私も最初は週2回通うつもりで予約をして通っていた。しかしながら、やはり週2回のお昼に弁護士会に通うことはスケジュールを確保しながらもやむを得ない事情により週1回になってしまったり、行けない週もあった。とはいえ、2000円で軽めの昼食（サンドイッチ）が付いて、80分の英会話教室はリーズナブルであるから可能な限り通い詰めたいところである。

実際に通いながら行ったことは、教室内で講師が配ったプリントに従い、会話や単語のチェックをすることである。場合によっては、その場でノートに単語を書いて、後で見直したりもした。講師は、「まずは話すことが重要であり、恥ずかしがることはない！」と強調してくれたので、自分を含め参加したみんなはなんとか英語をひねり出していた（それでも英語を話すときにうまく話そうと緊張してしまうことに上達を阻害する原因があるのだと改めて思った次第である）。

そのような状況で行ったアメリカでの実践は散々たるものであったことを隠さずに伝えなければいけない。アメリカに行ったのは、OTACONという日本のマンガ・アニメ等のコンベンションに招待されていたからである。当日は日本語を話すことができる通訳が付いてくれたので、特段の不自由はなかったが、現地にて色々な人と話すことができなかつたことは心残りである。それでも、お互いに知っている日本のマンガなどについて話すときは、文法等は気にしなくても通じるのだなと思った。この時に講師が言っていた上達のコツである、伝えたいことを恥ずかしがらずに拙くてもいいから話すことの重要を実感した。

また、去年は、外国の知人が多くできた。基本的に日本語を少なからず話すことができる人たちなので、コミュニケーションを取ることは問題ないのだが、英語が母語ではない人たちも英語が話せることが大前提である。英語や母語以外にも中国語やスペイン語を話せる人たちを目の当たりにしていると日本語しか話すことができない自分が取り残されている感覚に襲われる。

普通の生活では、英語の必要性を実感することはないが、今年は少し外を見てみると英語を話すことができることは当然となりつつある現実を目の当たりにしたので、もっと頑張らないといけなさと感じている。本原稿を執筆しているのは2015年の年末であるが、ここに2016年はこれまで以上に英会話教室に通い、自らの英語力を上げることをここに宣言しようと思う。